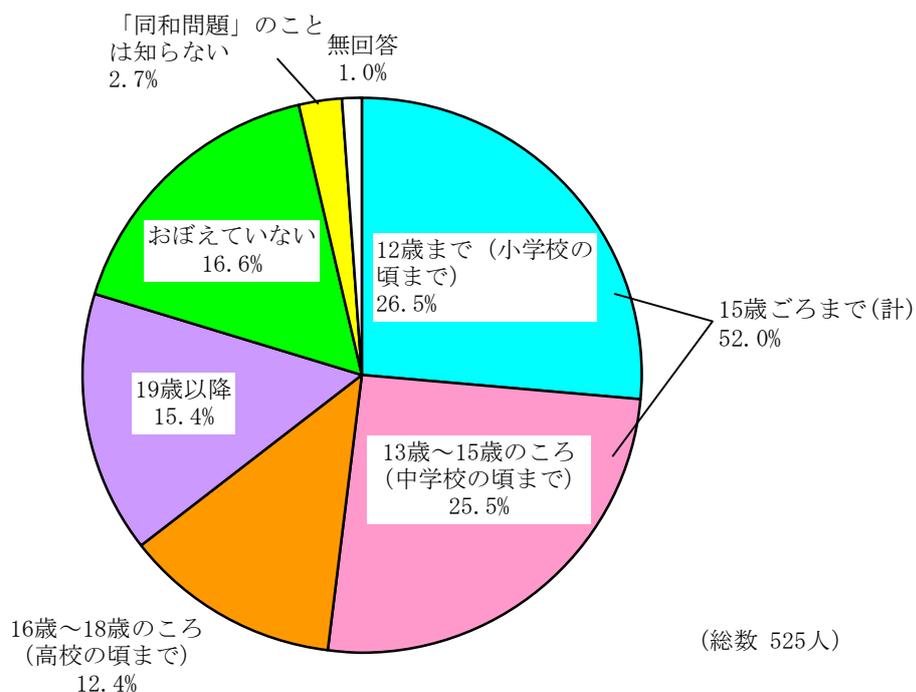


## 第7章 同和問題について

### 1. 同和問題の認知時期

問 18. 同和問題についてはじめて知ったのはいつ、どのようなきっかけでしたか。

(1) 一つ（記入は1つ）



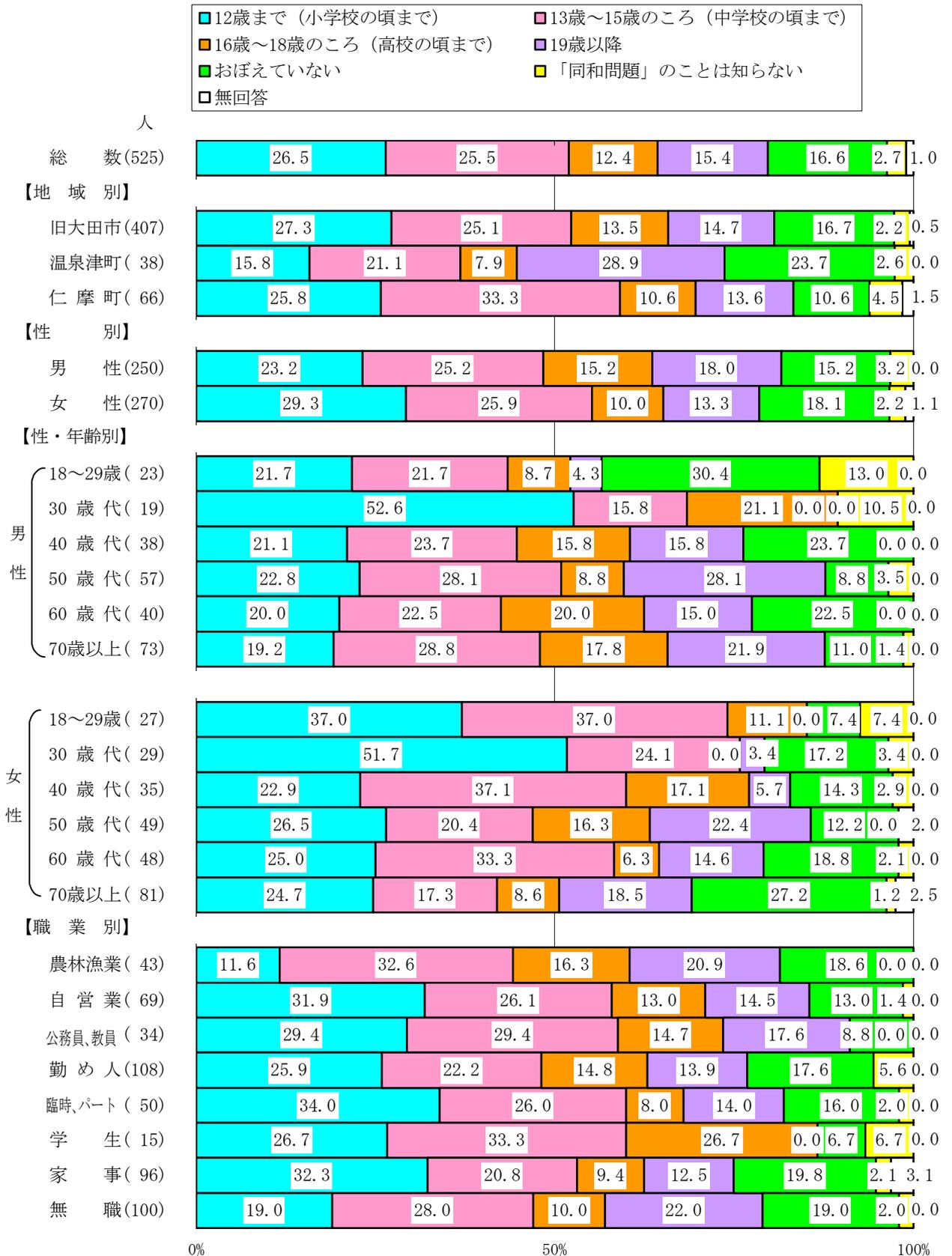
#### ■ 15歳ごろまでに過半数が認知

同和問題をはじめて知ったのは、「12歳まで」が26.5%（県20.0%）「13歳～15歳のころ」が25.5%（県18.5%）、「16歳～18歳のころ」が12.4%（県12.7%）、「19歳以降」が15.4%（県18.3%）となっており、中学卒業までに当たる『15歳ごろまで（計）』に認知した人が52.0%（県38.5%）を占める。なお、「おぼえていない」は16.6%（県25.6%）、「『同和問題』のことは知らない」は2.7%（県3.2%）となっている。

地域別にみると、『15歳ごろまで（計）』に認知した人は仁摩町（59.1%）が多い。

性別では、『15歳ごろまで（計）』は男性より女性が多い。性・年齢別でみると、『15歳ごろまで（計）』は、女性の若い世代で多くなっており、男女とも30歳代で最も多いが、29歳以下の男性は、43.5%と少なくなっている。また、29歳以下の男性は「おぼえていない」が30.4%と多くなっている。

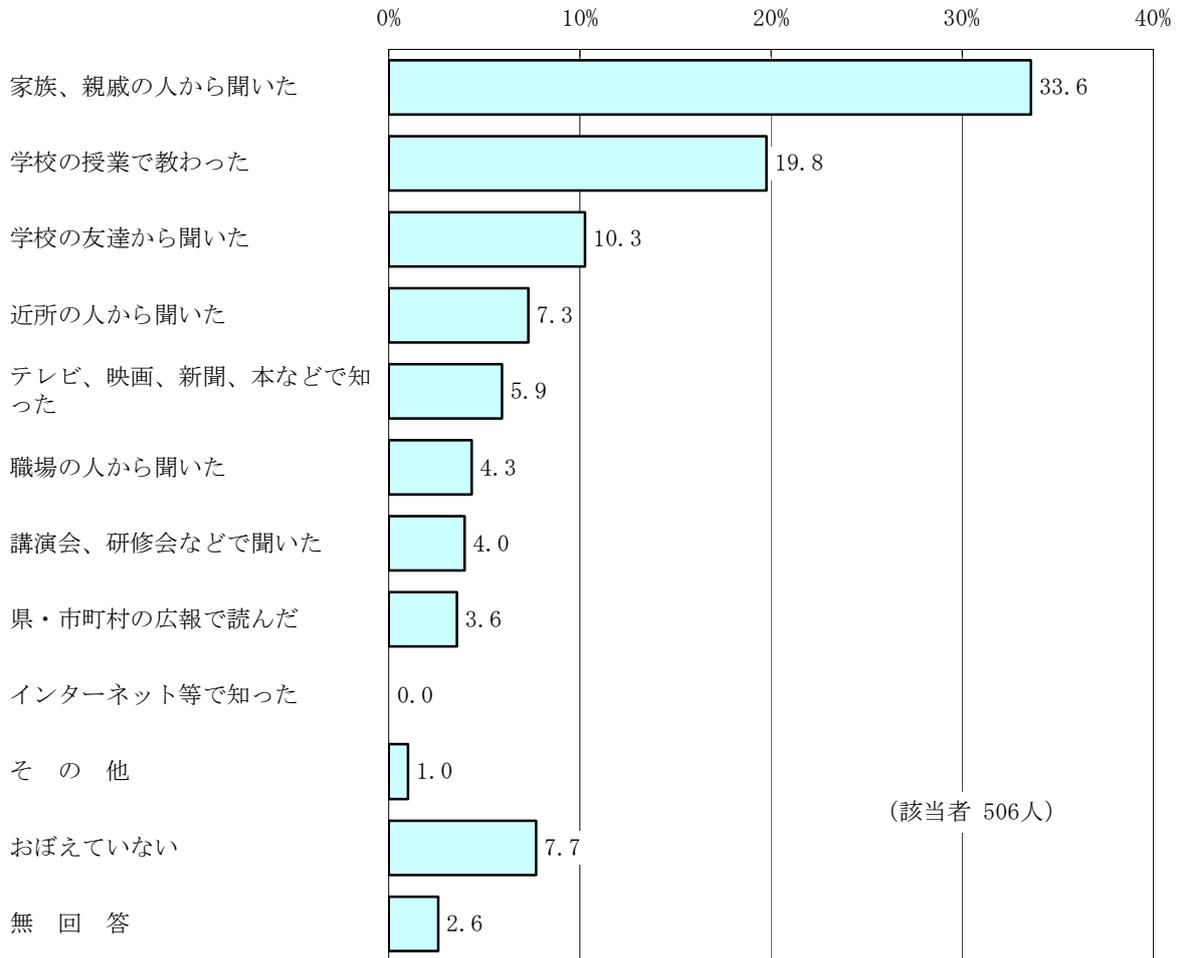
図 7-1 同和問題の認知時期



## 2. 同和問題の認知経路

問 18. 同和問題についてはじめて知ったのはいつ、どのようなきっかけでしたか。

(2) どのようにして (記入は1つ)



### ■ 「家族や親戚」が3人に1人、「学校の授業」が約2割

同和問題をはじめて知ったのは、「家族、親戚の人から聞いた」が 33.6% (県 27.8%) と最も多く、次いで「学校の授業で教わった」が 19.8% (県 21.0%)、「学校の友達から聞いた」10.3% (県 5.4%) となっている。

旧大田市が平成7年に市民 1,000 人を対象に行った市民意識調査結果と比較すると、「学校の授業で教わった」が増加しており、『身近な人間関係(計)』と『学校や公的媒体(計)』に分けてみると (図 7-3)、『学校や公的媒体(計)』は 33.2% でやや増加している。

図 7-2 参考：同和問題の認知経路（時系列比較）

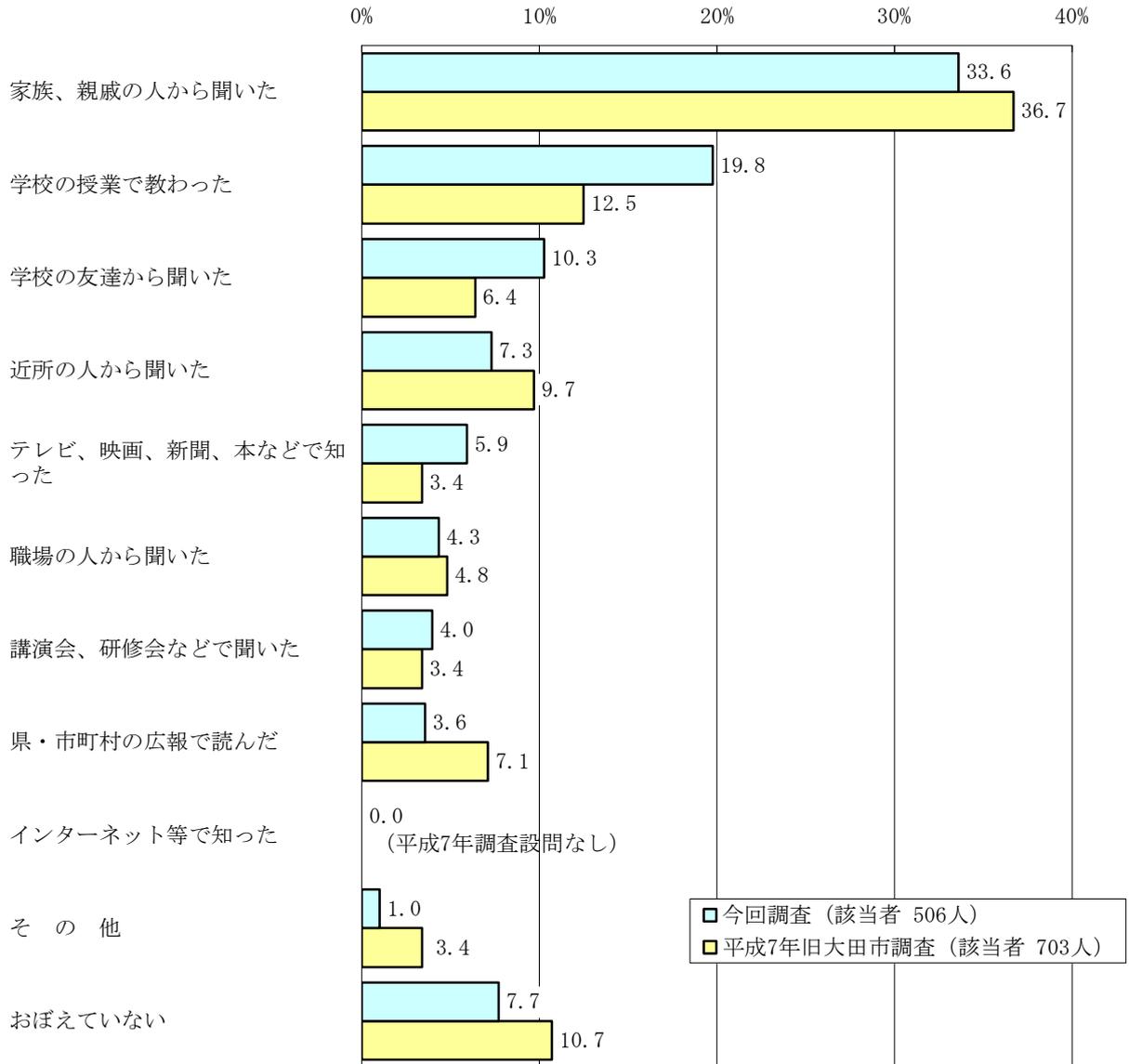
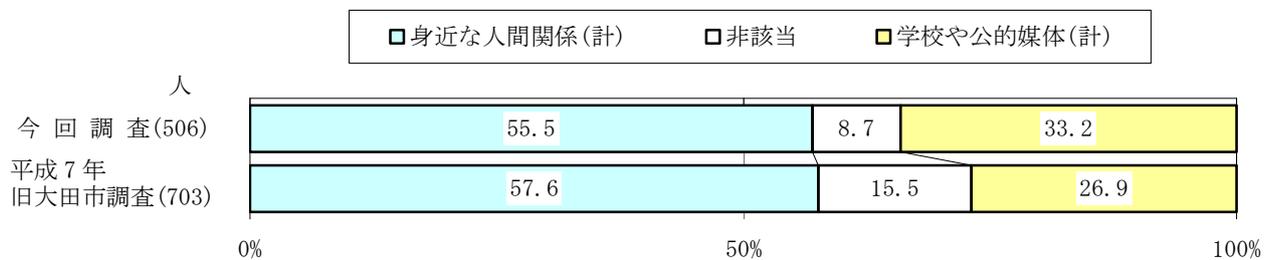
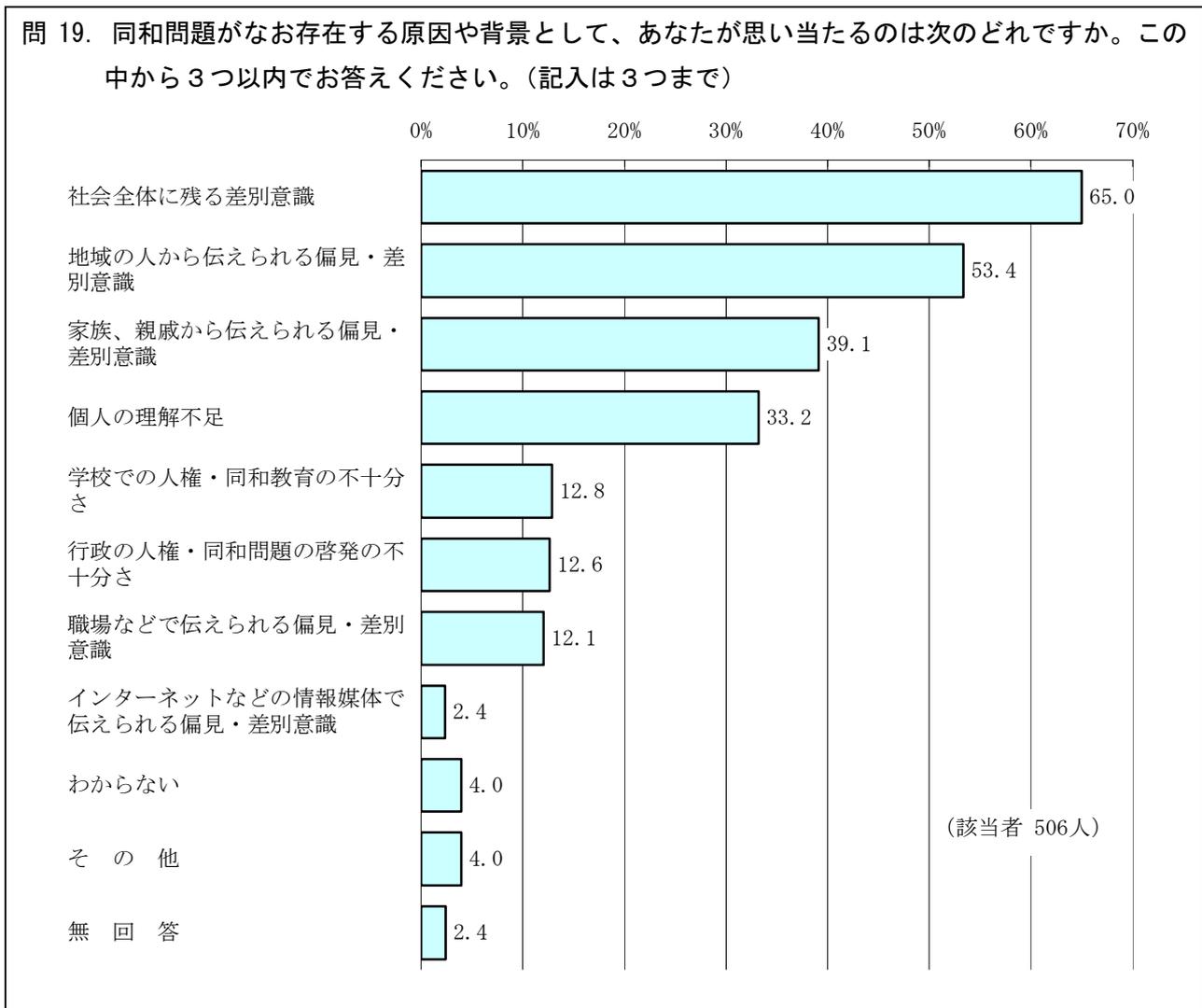


図 7-3 参考：同和問題の認知経路（媒体 2 分類による）



※身近な人間関係：「家族、親戚」「近所の人」「学校の友達」「職場の人」  
 学校や公的媒体：「学校の授業」「講演会など」「県・市町村の広報」「テレビ、映画、新聞、本など」「インターネット等」

### 3. 同和問題の原因や背景



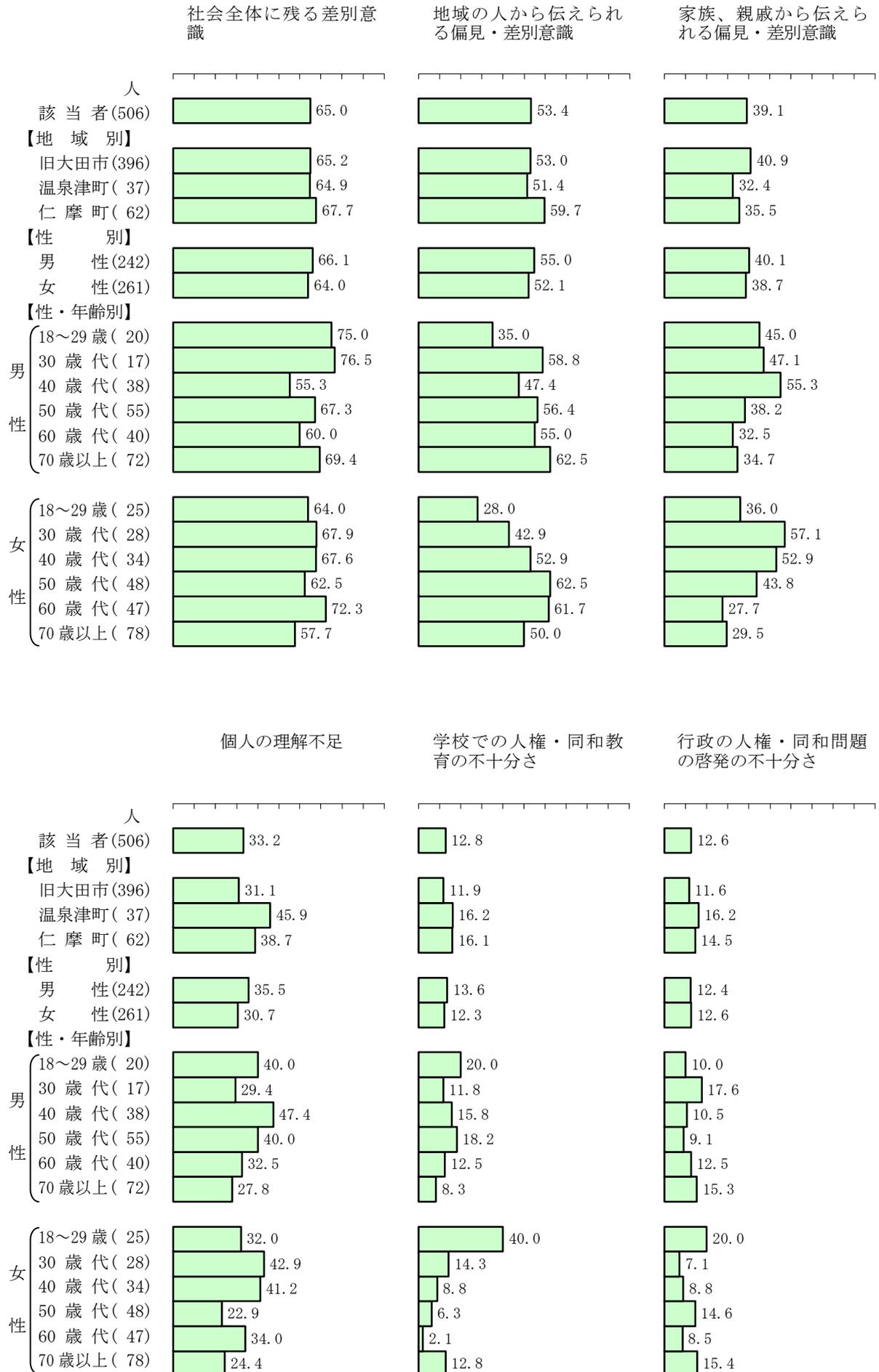
#### ■ 「社会全体に残る差別意識」が6割半、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が5割強

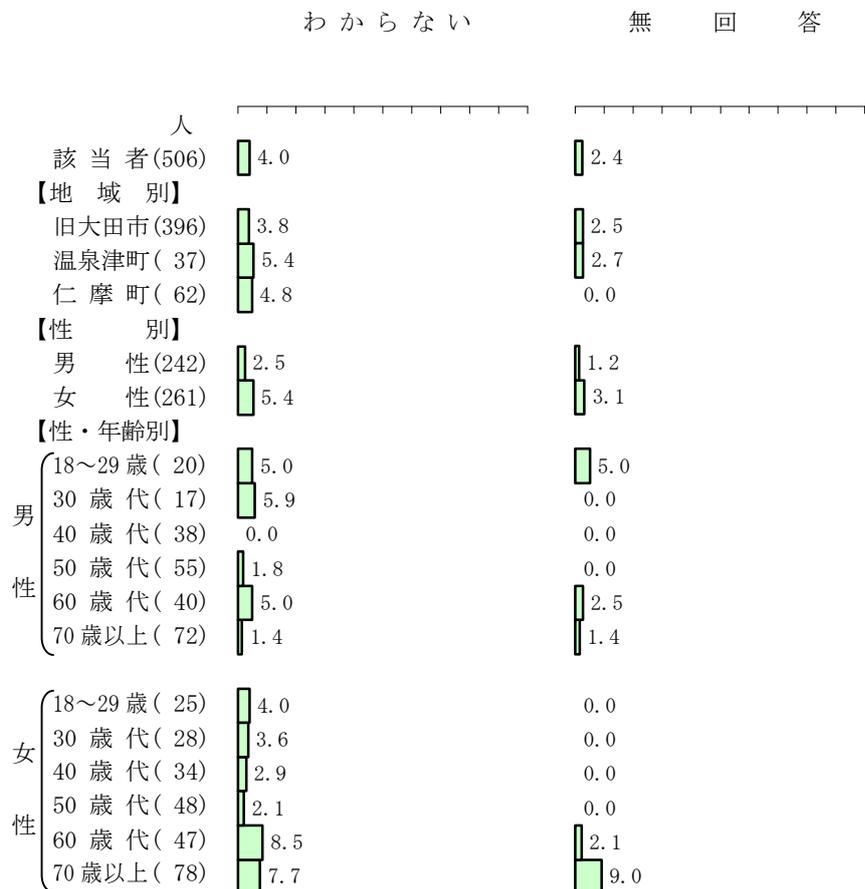
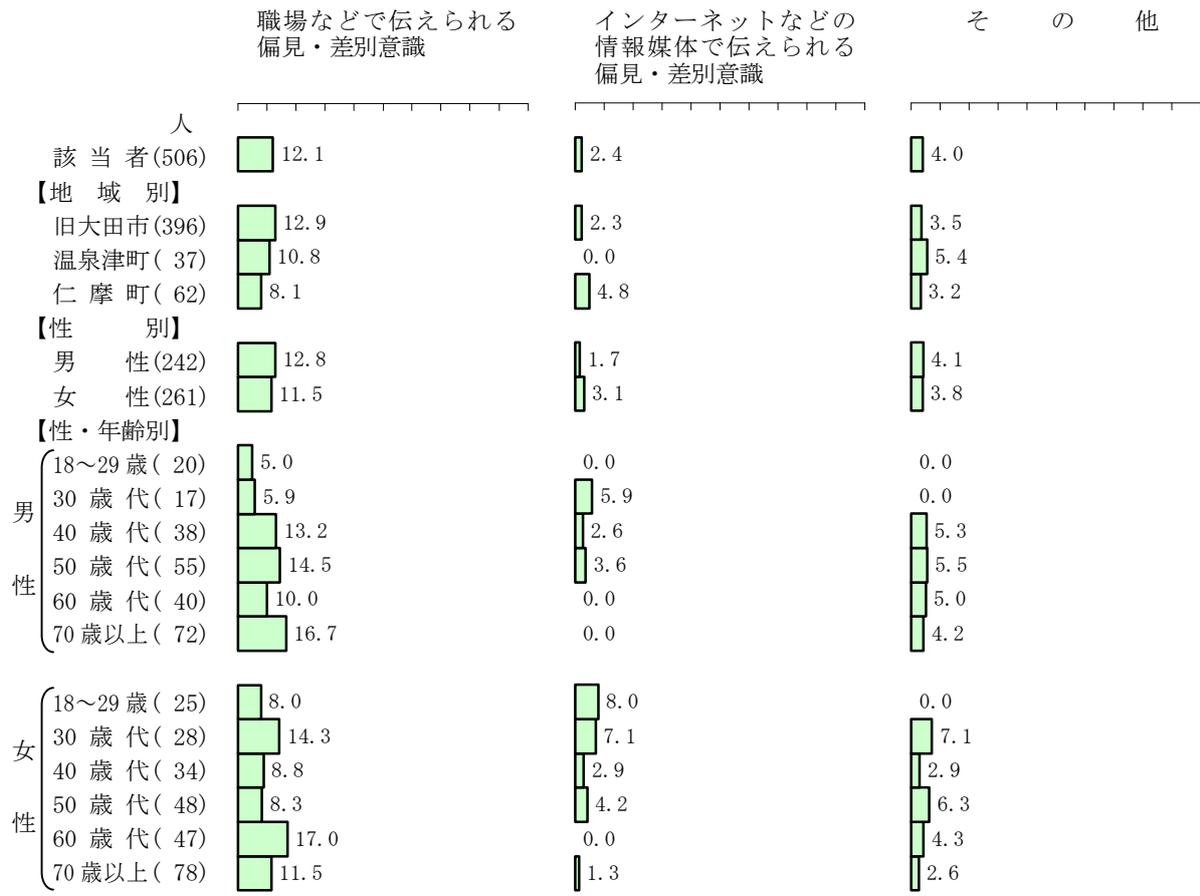
同和問題の原因や背景として、「社会全体に残る差別意識」が 65.0% (県 53.9%) 「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が 53.4% (県 53.9%)、となっている。以下「家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識」が 39.1% (県 37.6%)、「個人の理解不足」が 33.2% (県 24.5%)、「学校での人権・同和教育の不十分さ」が 12.8% (12.8%) とつづく。

地域別にみると、「個人の理解不足」が旧大田市 (31.1%) でやや少ない。

性別ではあまり差異はみられないが、性・年齢別でみると、全体で5位の「学校での人権・同和教育の不十分さ」が29歳以下女性 (40.0%) では、極端に多くなっている。

図 7-4 同和問題の原因や背景

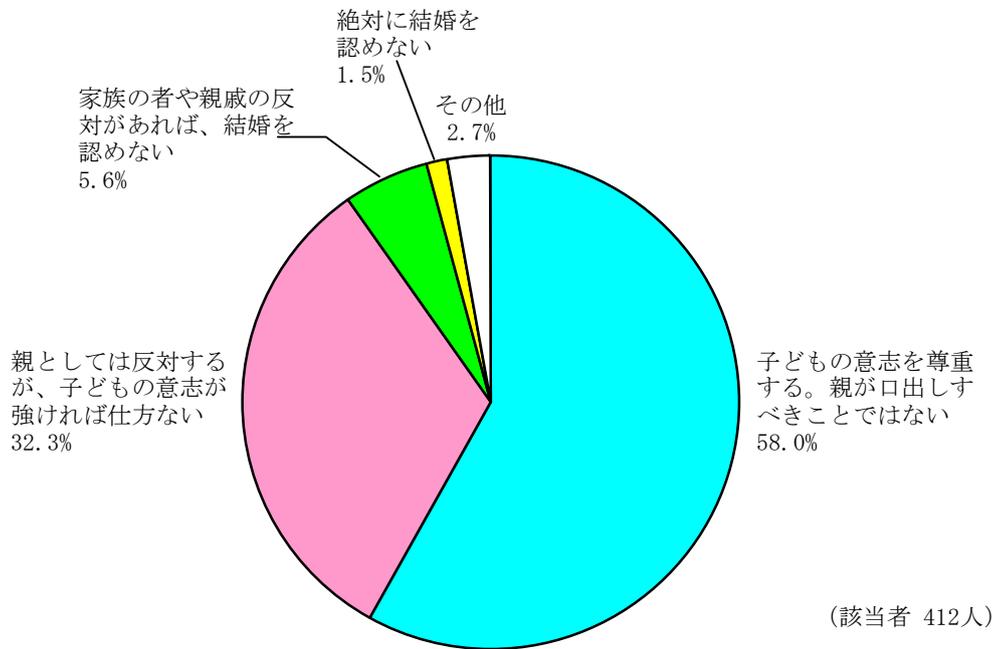




#### 4. 子どもの同和地区出身者との結婚

問 20. 結婚についてお聞きします。

(1) 既婚の方のみお答えください。仮に、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにしますか。(記入は1つ)



#### ■ 「子どもの意志を尊重する」が約6割

子どもが同和地区出身者と結婚しようとした場合の態度を聞くと、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」が 58.0% (県 53.5%)、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ仕方ない」は 32.3% (県 38.5%) となっている。一方「家族の者や親戚の反対があれば、結婚を認めない」は 5.6% (県 5.8%)、「絶対に結婚を認めない」は 1.5% (県 2.2%) となっている。

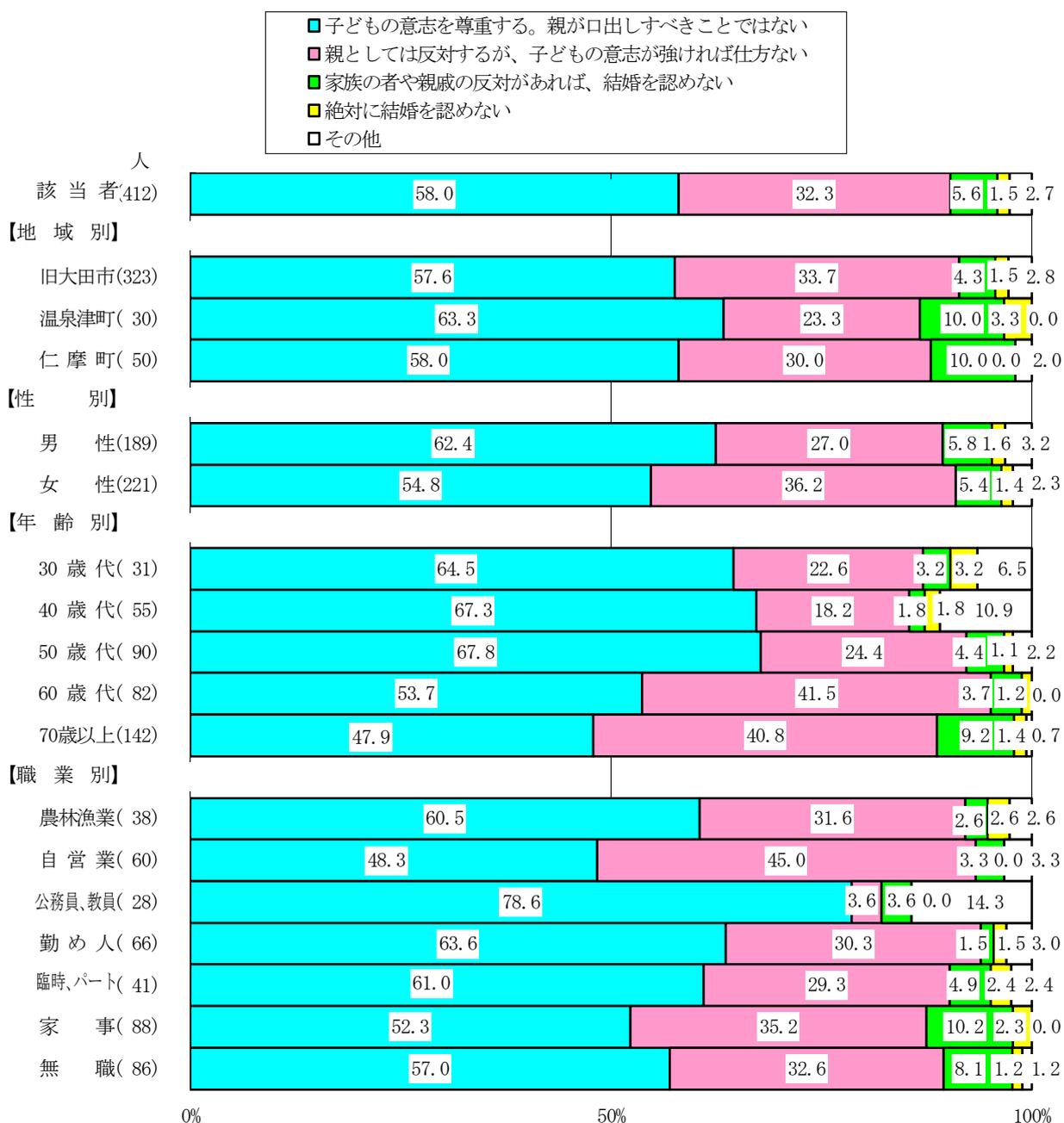
地域別にみると、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」は温泉津町 (63.3%) で多くなっている。

性別でみると、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」は、女性 (54.8%) より男性 (62.4%) が多くなっている。

年齢別にみると、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」は、30 歳代から 50 歳代で 6 割を超えているが、70 歳以上では 5 割をきっている。

職業別では、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」は、公務員、教員が 8 割弱であるのに対し、自営業は 5 割弱と差が開いている。

図 7-5 子どもの同和地区出身者との結婚



※性・年齢別は、標本数が少ないため、年齢別で集計

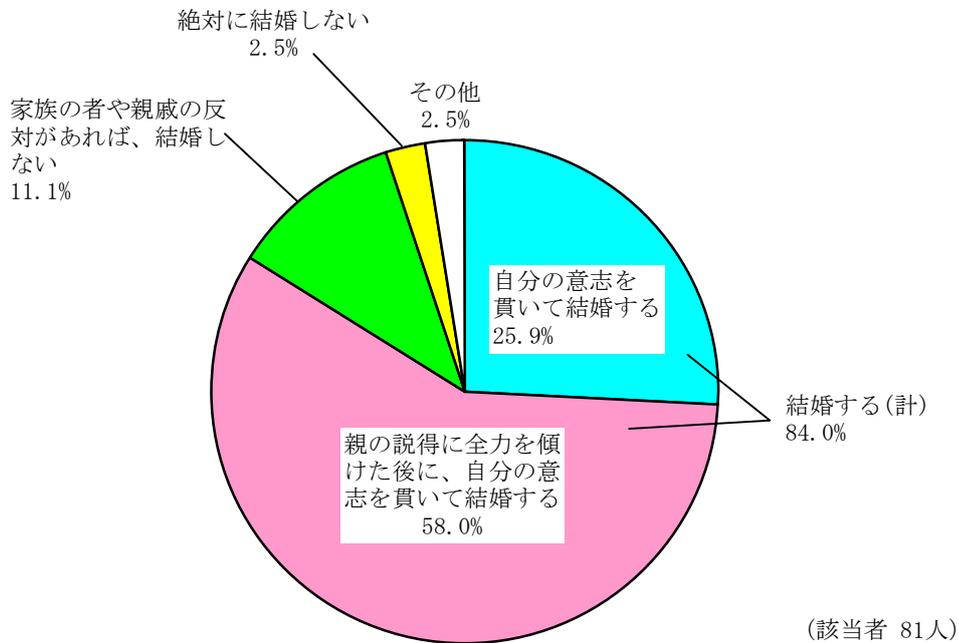
※年齢別の18~29歳は、標本数が極端に少ないため省略

※職業別の学生は、標本数が極端に少ないため省略

## 5. 同和地区出身者との結婚

問 20. 結婚についてお聞きします。

(2) 未婚の方のみお答えください。仮に、あなたが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けた場合、あなたはどのようにしますか。(記入は1つ)

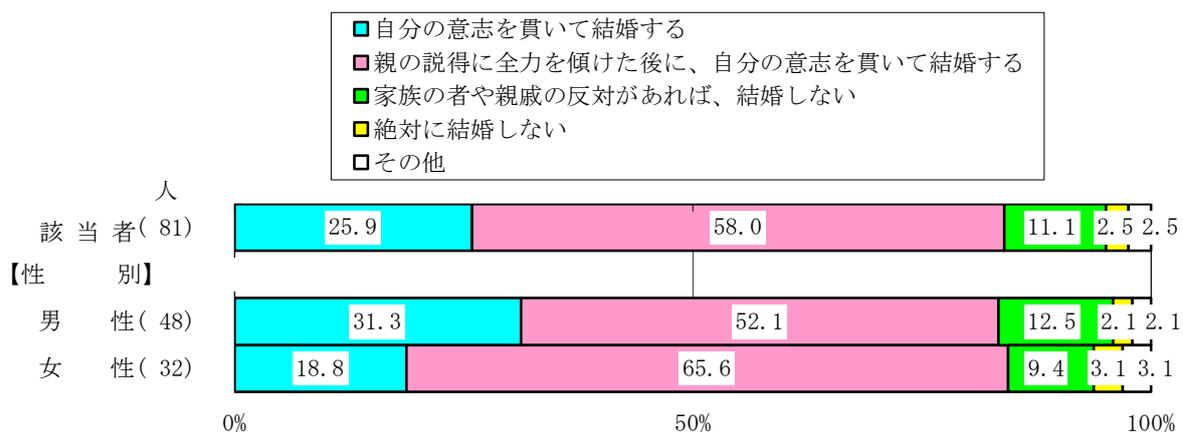


### ■ 『結婚する』が8割強

未婚者を対象に、同和地区の人と結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けた場合の態度を聞くと、「自分の意志を貫いて結婚する」は25.9%（県25.9%）「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」が58.0%（県60.6%）で、両者を合わせた『結婚する(計)』は84.0%（県86.5%）、一方、「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」は11.1%（県10.6%）、「絶対に結婚しない」が2.5%（県2.9%）となっている。

性別では、『結婚する(計)』についてはあまり差はないが、「自分の意思を貫いて結婚する」は女性が18.8%であるのに対し、男性が31.3%と多い。

図 7-6 同和地区出身者との結婚

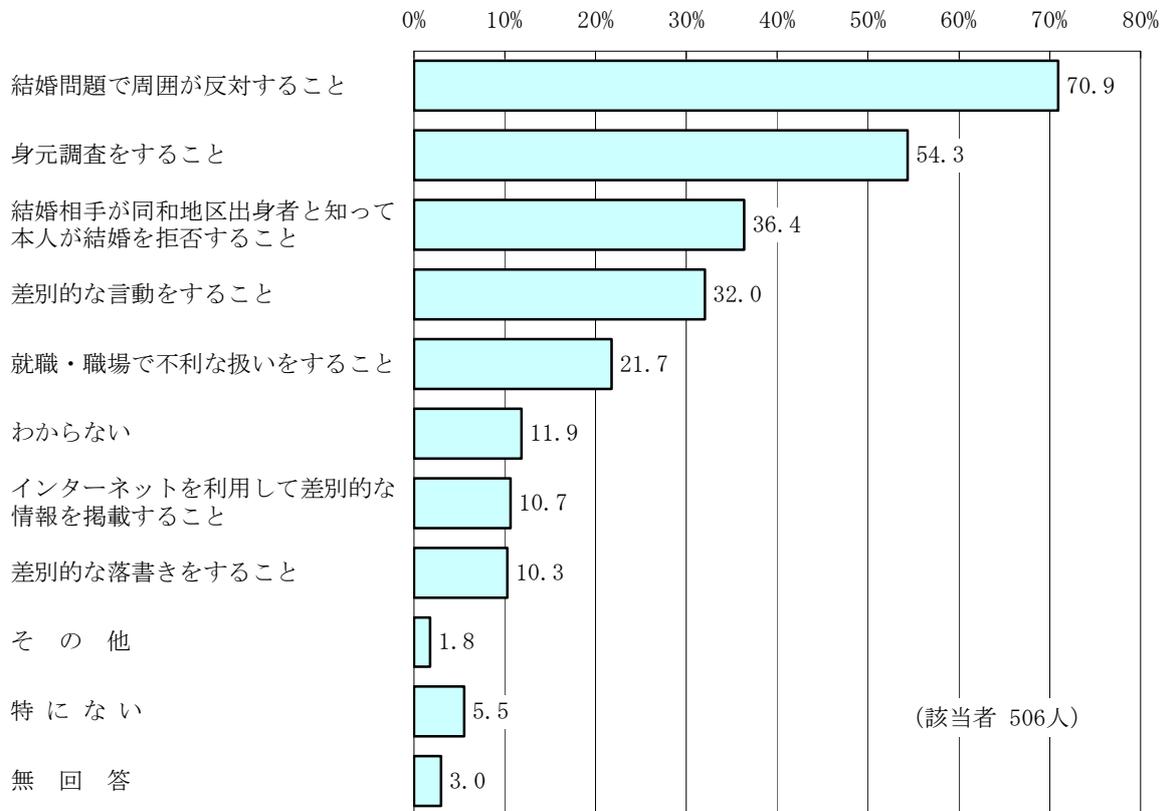


※地域別は、標本数が極端に少ない地域があるため省略

※性・年齢別は、標本数が極端に少ないため省略

## 6. 同和問題に関する人権上の問題

問 21. あなたは、同和問題に関し、現在、どのような人権上の問題が起きていると思いますか。  
この中からいくつでもあげてください。（記入はいくつでも）



### ■ 「結婚問題で周囲が反対すること」が7割

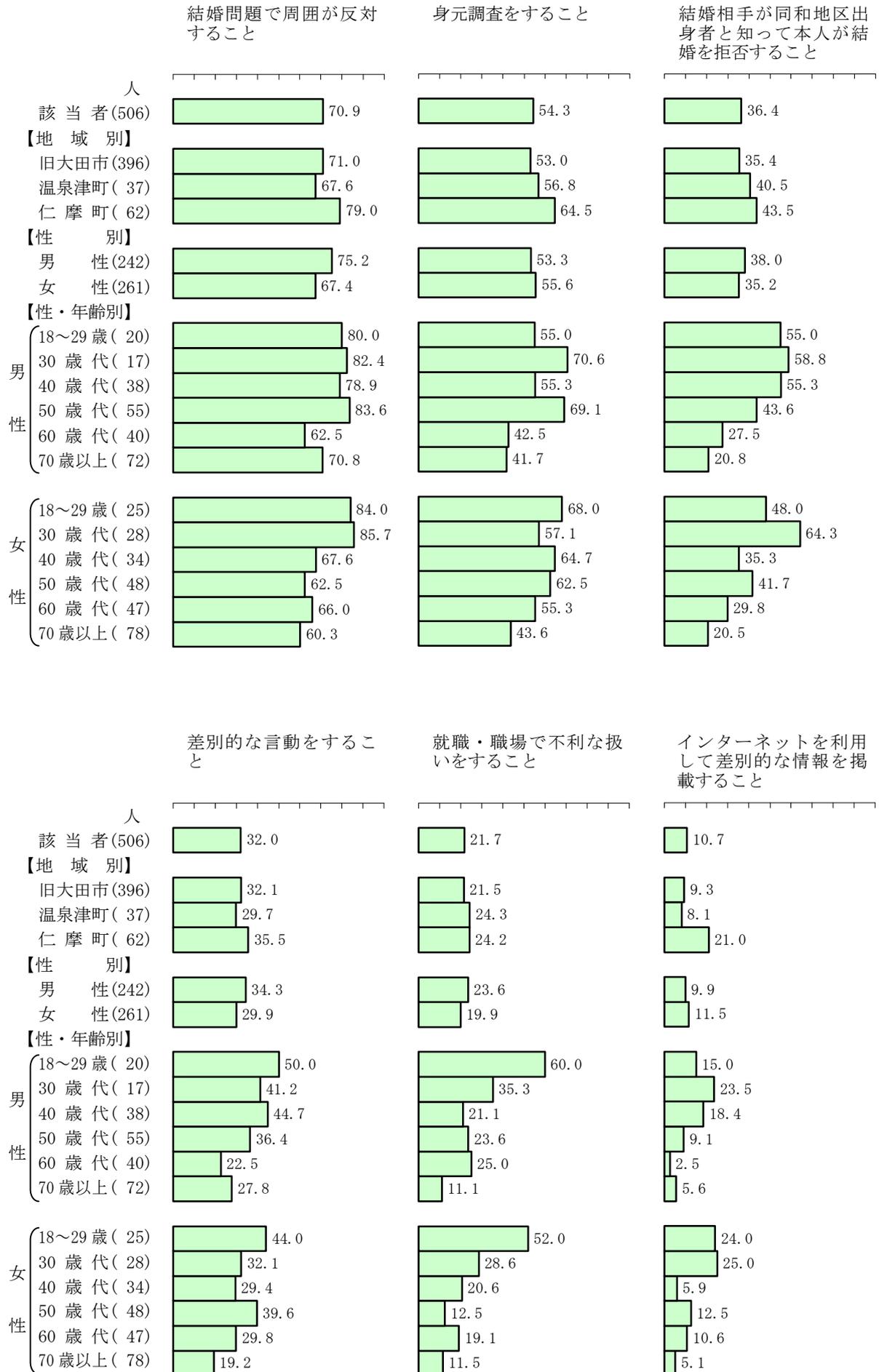
同和問題に関する事柄で、人権上問題があると思うこととしては、「結婚問題で周囲が反対すること」が70.9%（県63.9%）で、以下「身元調査をすること」54.3%（県45.0%）、「結婚相手が同和地区出身者と知って本人が結婚を拒否すること」36.4%、「差別的な言動をすること」32.0%（県24.4%）、「就職・職場で不利な扱いをすること」21.7%（21.9%）となっている。

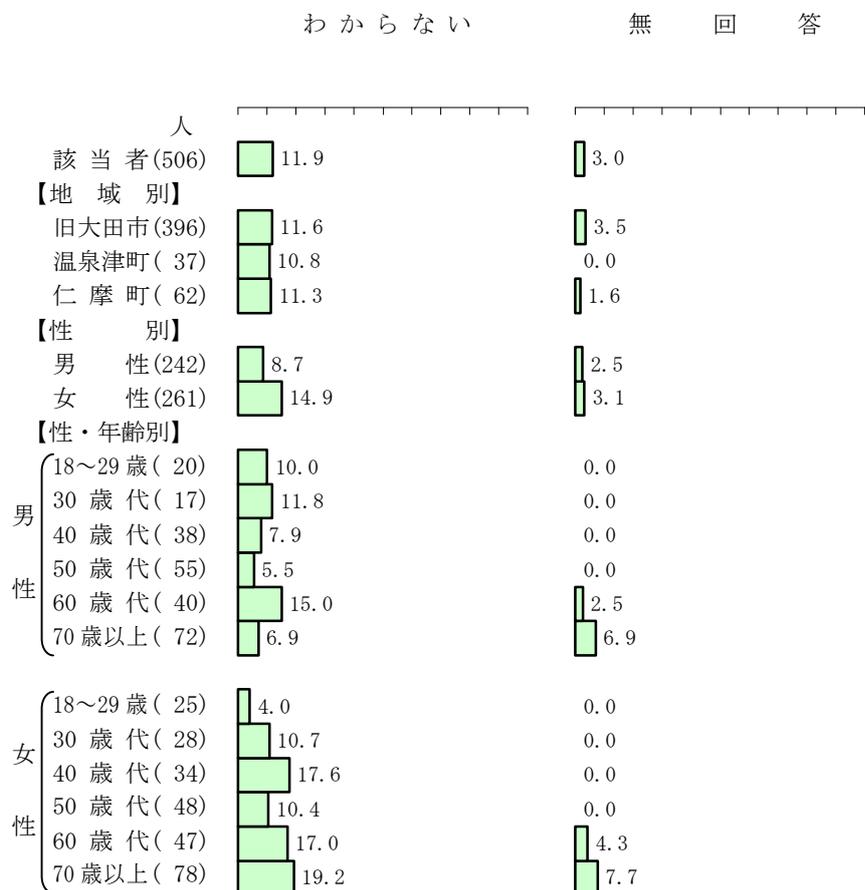
地域別にみると、ほとんどの項目において、仁摩町で多くなっている。

性別にみると、「結婚問題で周囲が反対すること」は、女性より男性に多くみられる。

性・年齢別にみると、「結婚問題で周囲が反対すること」は男性では50歳代以下、女性では30歳代以下でほぼ8割と多い。また、「就職・職場で不利な扱いをすること」は、男女とも29歳以下で過半数を超え多く増えており、全ての項目において若年層になるほど高くなる傾向がみられる。

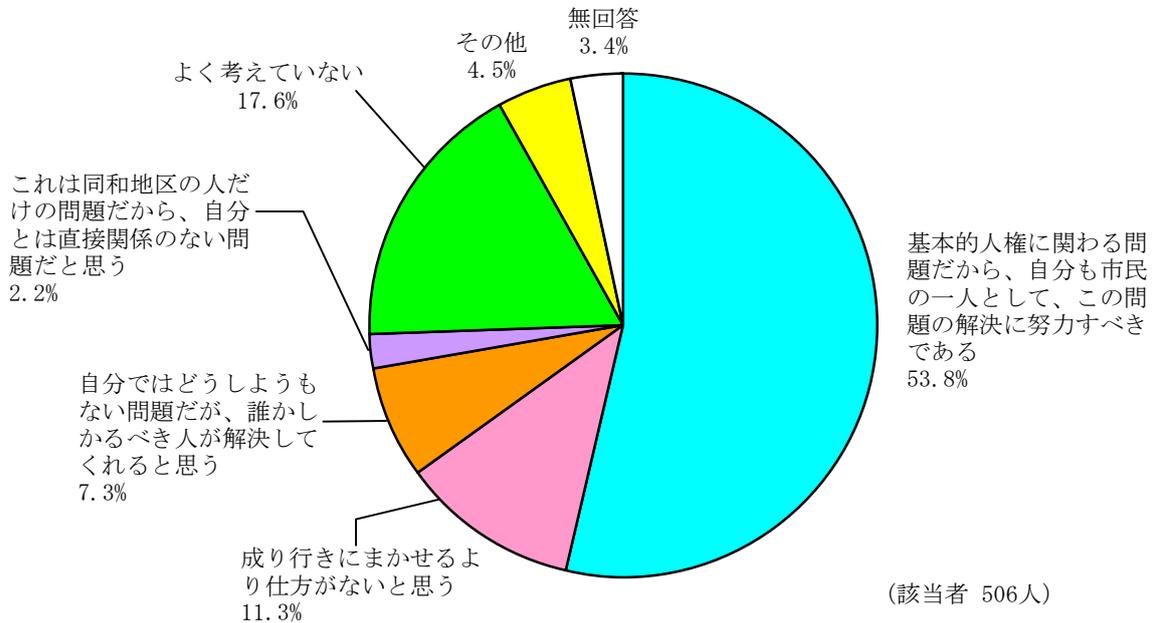
図 7-7 同和問題に関する人権上の問題





## 7. 同和問題の解決に対する態度

問 22. 同和問題の解決に対するあなたの考え方はどうですか。(記入は1つ)



### ■ 「自分も市民の一人として、問題の解決に努力すべきだ」が過半数

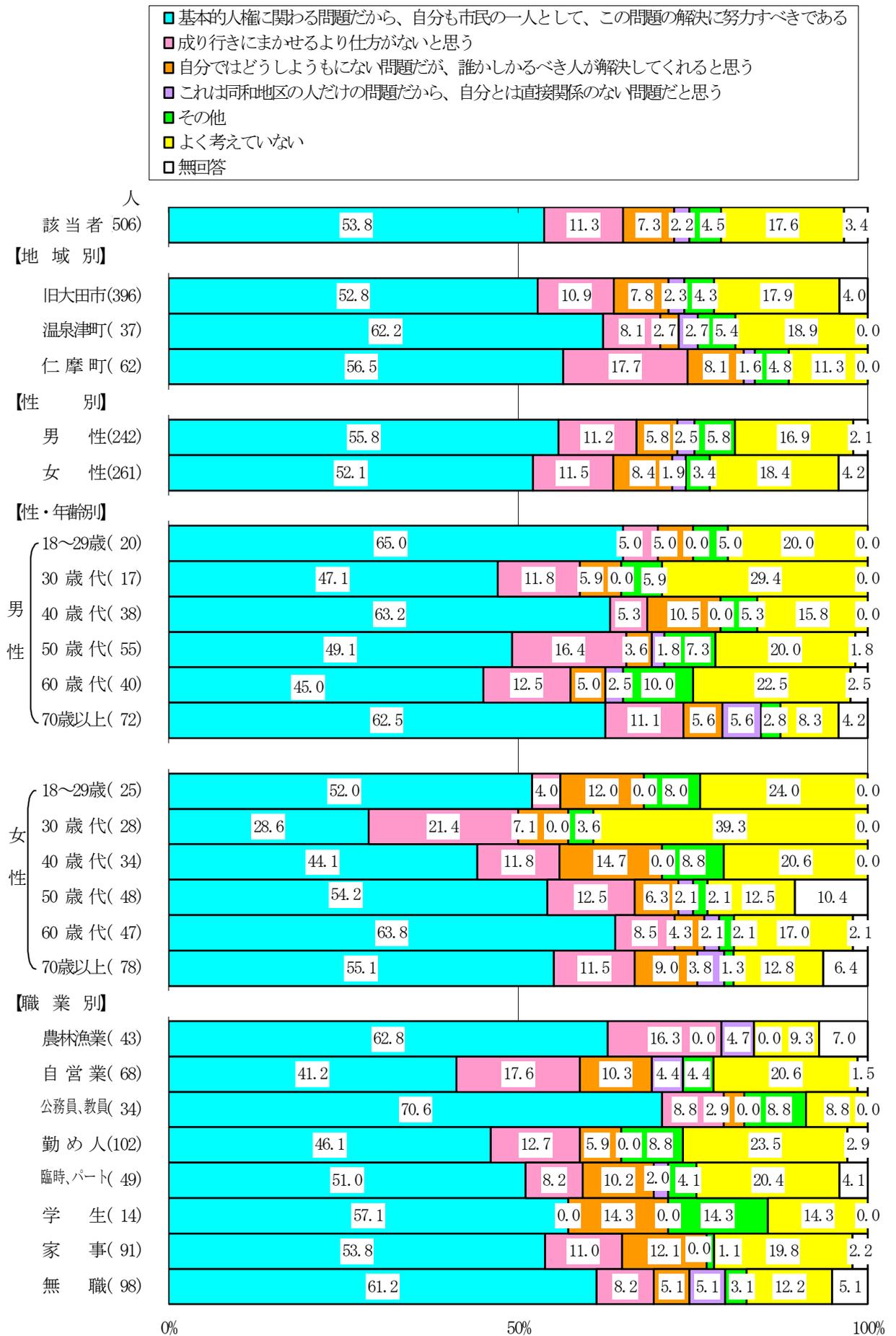
同和問題の解決に対する態度について聞くと、「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきである」と解決に積極的態度を示す人が、53.8% (県 49.3%) となっている。一方、解消に消極的なものは、「よく考えていない」が 17.6% (県 18.1%)、「成り行きにまかせるより仕方がないと思う」が 11.3% (県 15.3%)、「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う」7.3% (県 6.7%)、「これは同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う」2.2% (県 2.2%) となっている。

1位の「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきである」について、地域別では、温泉津町で6割を超えている。

性・年齢別にみると「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきである」は、29歳以下の男性が65.0% (県では60歳代の男性が61.0%) となっている。

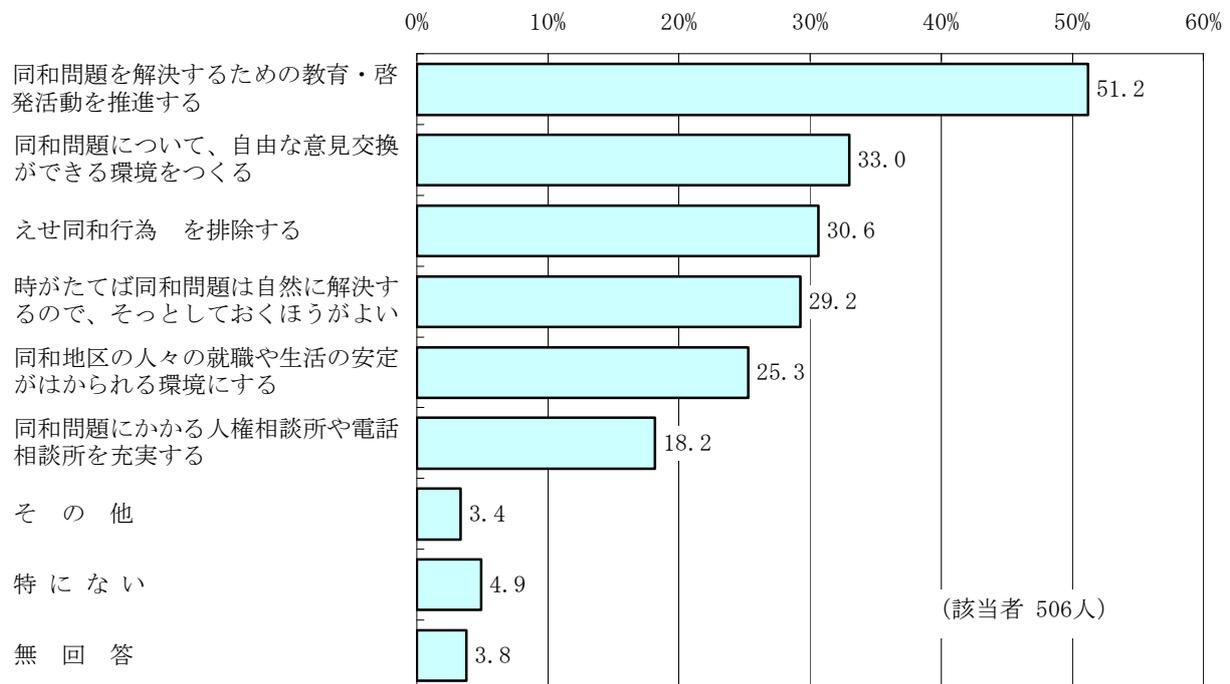
職業別にみると「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきである」は、公務員、教員が7割を超えている。

図 7-8 同和問題の解決に対する態度



## 8. 同和問題の解決に必要なこと

問 23. あなたは、同和問題の解決に必要なことはどのようなことだと思いますか。この中から3つ以内でお答えください。（記入は3つまで）



### ■ 「同和問題を解決するための教育・啓発活動を推進する」が5割

同和問題を解決するために必要なこととしては、「同和問題を解決するための教育・啓発活動を推進する」が 51.2%（県 49.7%）で、次いで、「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」33.0%（県 33.3%）、「えせ同和行為を排除する」30.6%（県 16.8%）、「時がたてば同和問題は自然に解決するので、そっとしておくほうがよい」29.2%となっている。

地域別では、全体で1位の「同和問題を解決するための教育・啓発活動を推進する」は各地域でも1位となっているが、温泉津町では2位の「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」（48.6%）についても多くなっている。

性・年齢別にみると、「同和問題を解決するための教育・啓発活動を推進する」は、男女とも40歳代以下で多くなっているが、50歳代以上で少なくなっている。一方、「時がたてば同和問題は自然に解決するので、そっとしておくほうがよい」は、男女とも40歳代以下で少なくなっているが、50歳代以上で多くなっている。

同和問題についての調査結果をみると、存在する原因や背景で最も多かったのが、「社会全体に残る差別意識」であった。2番目に多かった「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」も同じような原因である。また、解決に対する態度の問いでは「基本的人権に関わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきである」が5割となっているが、残りの5割については、消極的な意見や無関心な意見であることから、人権講座、訪問研修などをはじめとする隣保館活動の充実や、身元調査をしない・させない運動なども含めた同和問題に関する啓発活動を推進していくことが急務である。

図 7-9 同和問題の解決に必要なこと

